

**製品名: PLB (リン酸化 Ser16/T17) ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab05281**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率 WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300

分子量

## 抗原情報

遺伝子名	PLN
別名	PLN; PLB; Cardiac phospholamban; PLB
遺伝子 ID	5350.0
SwissProt ID	P26678
免疫原	抗血清は、Ser16 と Thr17 のリン酸化部位周辺のヒト PLB 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

## 背景

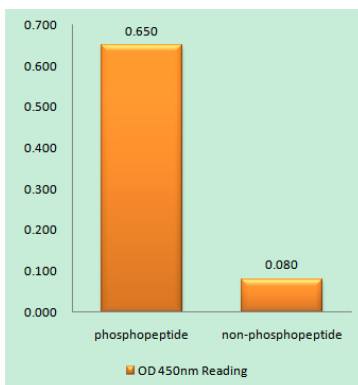
この遺伝子によってコードされるタンパク質は五量体として存在し、心筋の cAMP 依存性タンパク質キナーゼの主要な基質である。

このタンパク質は、リン酸化されていない状態では心筋筋小胞体 Ca(2+)-ATPase の阻害因子であるが、リン酸化されると阻害が解除される。その後、Ca(2+)ポンプが活性化され、筋弛緩速度が上昇し、β 刺激薬によって心臓で誘発される変力反応に寄与する。このタンパク質は、心臓拡張機能の重要な調節因子である。この遺伝子の変異は、難治性うっ血性心不全を伴う遺伝性ヒト拡張型心筋症、および家族性肥大型心筋症の原因となる。 [RefSeq 提供、2016 年 4 月],疾患: PLN の欠陥は、拡張型心筋症 1P (CMD1P) [MIM:609909]の原因です。拡張型心筋症は、心室拡張と収縮機能障害を特徴とする疾患であり、うっ血性心不全および不整脈を引き起こします。患者は早期死亡のリスクがあります。 ,機能: ホスホランバンは、心筋筋小胞体のカルシウムポンプの活性を調節すると考えられています。 ,PTM: β アドレナリン刺激に反応してリン酸化されます。 ,類似性: ホスホランバンファミリーに属します。 ,サブユニット: ホモペンタマー。 ,組織特異性: 心臓。 ,

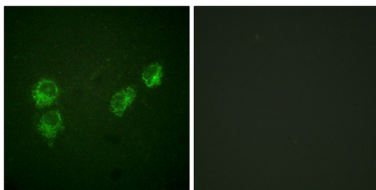
## 研究分野

カルシウム,拡張型心筋症

## 画像データ



PLB (リン酸化 Ser16+Thr17) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



PLB (リン酸化 Ser16+Thr17) 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。